少年鑑別所では、非行を行った子どもの過去の経験、人との出会い、価値観、家庭環境、学校での状況、その地域の文化などを調査し、どうして非行化したのか、どうやって更生させるのかを考えていく。

非行少年という子が本当に悪い子かというと、被害者にとっては「とても悪いやつ」だが、悪いことはしても決して「悪い子ども」という訳ではなく、学習能力が乏しい、家庭環境が良くない、対人関係がうまくいかない、衝動をコントロールできない、目標設定が出来ないといった何らかのハンディーを持ってる子どもが多く、非行をして違法行為をしたことで初めて発達障害が判明する子供もしばしば存在する。

発達障害があろうがなかろうが、性の問題に直面し、乗り越えていくということは、誰にとっても大切な課題であるとともに自然なことでで、「親以外の」異性との親密な関係を求める「自立」への第1歩である。その「自立」には、親からの心理的な「自立」と、他者との親密で対等な関係を結べるという人間としての「自立」という2つの意味がある。

思春期の性の問題は、発達障害を有する子どもの場合、より被害者になりやすく、より加害者になりやすく、他人に隠さないため表に出やすい。

発達障害を有しない子どもは、親以外の仲間や相談相手を作ることや情報の適切な取捨選択ができたり、親には性の問題に関して恥ずかしくて親には秘密にしがちといった理由で、親の知らない間にいつの間にか性の問題を乗り越えているケースが多い。

一方で発達障害を有する子どもが性の問題に対面した場合にはより困難が発生しやすい。

その理由は、仲間を作ることが困難で孤立しがち、相談相手が得られないので情報が限られる、情報の取捨選択ができない、インターネットなどの偏った情報でも素直に受け入れてしまいがち、視覚的情報に敏感に反応してしまいがち、親に隠れて(親に秘密にしながら)乗り越えてくれないなどが挙げられる。

従って発達障害を有する子どもに対しては、親は通常よりも少し余計に関与する必要があり、より正しい理解と支援が求められる。家庭や学校での正しい性の情報の伝達や学習の機会が必要であるが、性の知識は具体的に判りやすく、率直に、視覚的情報も活用して、明るく、自然な態度で伝える必要がある。

非行少年たちの異性に対する接触はあまりに唐突で、相手が同意してくれると思い込むなど関係づくりの拙さが感じられ、ソーシャルスキルの拙さ、状況の読めなさ、そして不適応の状況がしばしばみられる。相互的なコミュニケーションによってより良い性的関係を深めるためには、思春期における性の課題を念頭に置いて、幼児期、学童期からのソーシャルスキルトレーニングがより重要である。

<発達障害を有する子どもの性の問題に対する親の支援～女の子の場合＞

同性の親(母親)は良き相談相手となり、異性の親(父親)は適切な距離を取って、性を乗り越える旅路の邪魔をしないことが重要である。思春期は依存的になる時期であり、密接な二者関係を強く求める時期であるが、自ら被害に遭ってしまう少女の多くは、家庭が心の居場所になっておらず、依存対象を見失っているケースが多いため、女の子が性の被害者にならないためには、幼いころから親がまず子供の依存を受けとめることが大切である。母親は、性について率直に相談できる関係を築き、性について普通に話題にして会話ができる、その場面を想像させて具体的に考えをめぐらさせて決して親の方が逃げたり、否認しないことが重要である。父親が出来る支援は、直接的なことは母親に任せて、適切な距離を取って見守り、何よりも良き男性のモデルを示すことが望ましい。小さい時から自己尊重感を形成することにより、自分をしっかりと守ることが出来るようになり、異性を見る目(パートナーの選択)につなげることが出来るようになる。また、はっきりと「No」が言えるような意思表示のスキルを日頃から育てておくことも大切である。もし子どもが性被害に遭ってしまった場合には、決して子どもを責めず、子どもの怒りや悲しみの感情を抑圧しないで受け止めて、その子どもが悪いのではないとはっきりと伝えて自己尊重感を守る必要がある。また、診察や警察の取り調べ、親戚や近所といった想定される二次被害から子どもをしっかりと守り、加害者には厳正な制裁と謝罪を求めるために手を尽くすべきである。また、必要に応じて専門家に頼ることを迷わず、たっぷりと時間を取って寄り添いながら回復を待つことが大切である。

<発達障害を有する子どもの性の問題に対する親の支援～男の子の場合＞

女の子はより性の被害者になりやすいという問題を持つが、男の子の場合はより性の暴走をしやすい。これを予防するためには、全般的なコミュニケーション能力を伸ばしておくことが重要である。つまり、母親以外の女性の知人や友人を持ち、言葉や表情や状況から相手がどのような気持ちでいるのかを学ばせ、一方的にならないような相互的なやり取りを日頃から訓練しておく必要がある。男の子の性に対する相談相手は同性であることが望ましく、同性の支援者との間になんでも相談できる関係を保ち、身近に具体的な男性モデルを与えることが重要である。同性(男性)の相談相手(父親など)に期待されることは、女性は大切にすべき存在であり、相手の気持ちを尊重すべきであることを教え、相手の気持ちや配慮すべきことを分かりやすく教えること、異性との関係には失敗がつきもので、たしなめたり、抑制したり、励ましたり、慰めたり、愚痴を細やかに聞く、、、そうしているうちに折り合いがついて、双方向的で常識的な異性関係を学んでいけるようになる。父親は子どもの良き相談相手となり、男性の先輩として、温かく、率直に、具体的に相談に乗り助言する必要があり、決してバカにしたり茶化したりしてはいけない。また、してはいけないことはきちんと枠づけて、間違った行動については厳しく戒める必要がある。

母親の役割は、基本的には距離を置いてみることが大切で、支配的、操作的な関係を築いてはならない。支配的な関係を築いてしまうと、女性に対する攻撃性を育ててしまうことになる。母と息子の絆は性の問題以外の別のところにあり、母親は、幼児期、学童期にしっかり子供からの依存を受けとめて、手を離したときに心理的な支えになる必要がある。

＜まとめ＞

子どもの性が問題になる時、結局は親の性が問われる。

親自身がいかに性的に成熟しているかが問われ、性の話題を忌み嫌う、否認する、避ける、茶化すという未熟な態度ではなく、大人の方こそ対等な人間関係に基盤を置いた成熟した性の在り方に開かれている必要がある。

基本の姿勢は、、、私(の体)は大切なもの、性は素敵なもの、素敵な性を生き生きと自分らしく生きられる素敵な大人になってほしい。

定本先生のご講演を拝聴し、発達障害の子どもこそ、その子どもの特性をより理解し、受けとめ、自己肯定感を育て、正しい性の知識を隠さず明るく具体的にわかりやすく伝える事によって、子ども達を性の問題から守ることが出来ること、またそのためには私達大人が正しい性の知識を持って適切に子どもたちに伝えていくことの大切さを再度認識させられました。